

用語の説明

	用語	主な内容
1	認知症サポーター	認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者です。市町村や職場などで実施されている「認知症サポーター養成講座」を受講した人が「認知症サポーター」となります。受講後、オレンジリング（有償）をお渡ししています。
2	認知症疾患医療センター	認知症の速やかな鑑別診断や、行動・心理症状（BPSD）と身体合併症に対する急性期医療、専門医療相談、関係機関との連携、研修会の開催等の役割を担います。神奈川県内には、令和6年9月現在で、26か所設置しています。
3	認知症サポート医	認知症患者の診察に習熟し、かかりつけ医への助言や支援を行うとともに、専門医療機関や、地域包括支援センターとの連携・推進役となる医師です。
4	かながわオレンジ大使（認知症大使）	多くの県民の皆様へ、認知症について理解していただくため、県では、認知症の方ご本人が思いを直接伝え、その人らしい活動を発信する「かながわオレンジ大使」（認知症本人大使）を令和3年4月に創設しました。認知症の当事者が、様々な場や、様々な方法で活動します。
5	コグニサイズ	認知機能を向上させ認知症のリスクを軽減する早めの対策の一つとして今、「運動」が改めて注目されています。「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題を組み合わせた、脳と身体の向上をさせることが期待される運動を現した造語です。英語の cognition（認知）と exercise（運動）を組み合わせるとコグニサイズと言います。県では、コグニサイズを教える研修や、地域ミーティング等行っています。
6	認知症コールセンター	認知症全般に関することや、介護の悩みなどを、介護の経験者を中心としたスタッフがご相談に応じます。県内では3か所のコールセンターがあります。
7	認知症等行方不明 SOS ネットワーク	認知症の人が行方不明となった際の早期発見、保護等を行うため運用されている関係機関による相互の連絡調整等行う仕組みです。市町村では、行方不明になる方の事前登録を行っています。
8	認知症カフェ	認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有しお互いを理解し合う場です。地域の状況に応じて、様々な主体により実施されています。
9	認知症ケアパス	地域ごとに、発症予防から人生の最終段階まで、生活機能障害の進行状況に合わせ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したものです。

	用語	主な内容
10	認知症初期集中支援チーム	医療・介護の専門職が、家族の相談等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、必要な医療や介護の導入・調整や、家族支援などの所為の支援を包括的、集中的に行い自立生活のサポートを行うチームです。
11	本人ミーティング	認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、より良い暮らし、暮らしやすい地域の在り方を一緒に話し合う場です。
12	認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	認知症（急性を除く）の高齢者等に対して、共同住居で、家庭的な環境と地域住民との交流の下、入浴・排泄・食事等の介護などの日常生活上の世話と機能訓練を行います。